

令和8年度活動計画

【本町の農業の現状と課題】

町内の農業は、さとうきびや早期水稻といった土地利用型作物の栽培が盛んに行われている。しかし、担い手不足や農業者の高齢化が深刻化していることに伴い、遊休農地の増加や農家戸数の減少が懸念されている。また、肥料や農薬などの農業資材の多くを島外から移入している現状があり、化石燃料価格の高騰が生産コストに直接的な影響を及ぼしている。

こうした課題は農業分野にとどまらず、地域全体に共通する問題でもあることから、将来に向けた解決策の検討が不可欠である。

【持続可能な食料システムの構築と有機農業の推進】

このような状況の中、農業及び地域社会の将来を見据え、持続可能な食料システムの構築に貢献する取組として、有機農業の推進に取り組む。有機資源を活用した環境にやさしい農法による農産物の生産は、付加価値の向上につながり、地域の製品としての競争力を高めることが期待される。

さらに、こうした有機農産物を活用することで、子どもたちに環境に配慮した地元の食材を用いた給食を提供することも可能となる。有機農業を軸とした「オーガニックな町づくり」を進めることで、環境汚染の軽減、人口減少や高齢化といった地域が抱えるさまざまな課題の解決を目指す。

① 検討会・研修会の開催

【有機農業を核としたまちづくりと多機関の連携】

南種子町では、有機農業の推進を核としたまちづくりを目指し、南種子町有機農業推進協議会を中心に活動を進めている。同協議会では、さまざまな構成機関がそれぞれの専門分野から意見を交換し合い、地域全体に広範な波及効果をもたらすことを目的としている。こうした連携により、持続可能な地域社会の形成を目指している。

【本年度の具体的な取り組み】

1. 有機給食への地元産品の供給に関する研修会の継続開催

地元産有機農産物を活用した給食提供を目指し、関係者を対象とした研修会を継続的に実施する。これにより、地域産品の活用促進と有機農業の魅力を広める機会を創出する。

2. グリーンな栽培体系加速化事業の成果の普及

当事業で作成したマニュアルを活用し、地域内での普及活動を実施する。環境負荷の少ない栽培方法を広めることで、持続可能な農業体系の確立を目指す。

3. 調査成果を踏まえた今後の方向性の検討

鹿児島大学との共同研究により実施された「種子島産農産物の生産・流通の実態および町民（島民）の消費行動調査」の成果を基に、地域内で生産される農産物の流通・販路の現状を把握し、今後の方向性を具体的に検討する。また、現在取り組んでいる品目についても改善点を議論し、さらには先進地域の成功事例に関する研究や研修を進める。

【目指す効果と展望】

これらの活動を通じて、有機農業を基盤とした地域内循環システムを構築し、環境に配慮しつつ地域の特性を活かした産業振興を実現する。また、地域住民や関係機関との連携を強化することで、長期的な課題解決と持続可能なまちづくりにつなげていく。

② 有機農業推進のための試行的な取り組みの実施

【生産分野】

町内において需要が高い農産物があることから、品目の選定や栽培方法の検証を行い、それに基づく必要な研修会を実施する。

【担い手確保と有機農業の普及啓発】

地元産有機農産物の学校給食利用を拡大することに加え、農業体験イベントを実施、地域住民や若手農業者を対象に有機農業や特別栽培への新規参入を促進するための研修会を実施する。また、地域の環境意識の向上を目指し、地元産有機農産物に関するエシカル消費を推進する取組を進める。

※エシカル消費とは、消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

③ 事業の目標及び波及効果

現在、南種子町の有機農業の取り組み面積は全耕地面積の1.03% (14.9ha) である。令和4年度策定の有機農業実施計画では、令和9年度までに0.72% (11.5ha) が目標となっており、今後はさらに拡大することを目指す。

また、有機農産物の販売量の拡大に加え、有機農業に新たに取り組む人を令和9年度までに16名に増やすことを目標としている。この取り組みを通じて、以下のような波及効果が期待される。

- ・環境負荷の低減
- ・地元有機資源の利用促進
- ・遊休農地の解消
- ・地元産有機農産物の学校給食への活用
- ・地域住民の環境意識の向上

これらの取組により、持続可能な社会の構築に貢献することを目指していく

年度	全耕地面積	有機農業		品目			
			うち有機JAS 認証取得	青果用 さつまいも	ばれいしょ	茶	その他
R7	1,435ha	14.9ha	12.5ha	5.1ha	1.5ha	2.6ha	5.7ha
R6	1,587ha	11.9ha	8.1ha	4.3ha	2.7ha	2.6ha	1.7ha
R5	1,587ha	10.8ha	8.5ha	3.4ha	2.7ha	2.5ha	2.1ha
R4	1,587ha	10.7ha	6.2ha	3.8ha	2.5ha	2.5ha	1.8ha

※全耕地面積：農業センサスの経営耕地総面積のこと

地域振興事業（環境にやさしい持続可能な農業推進事業）を活用した取り組み計画

時期	場所	内容	担当部会
R8.4月～ R9.3月	学校	学校給食での有機食材活用(ゆうきっこチャレンジ給食)、有機給食会	有機給食
	町内保育施設	あおぞら保育園での食材活用	生産技術 有機給食
	圃場	有機農業体験イベントの開催	生産技術 普及・流通
	町施設	環境にやさしい持続可能な農業研修(農業者全般)	生産技術 普及・流通
	トミー市場	有機農産物や特別栽培(農薬不使用・化学肥料不使用等)野菜コーナーの充実	生産技術 普及・流通
	ー	有機等農産物販売イベント開催	生産技術 普及・流通
	ー	有機農業研修会の開催(太陽熱養生法, シーダーテープ活用による根菜等栽培等 年6回程度)	生産技術、普及・ 流通、有機給食
	国内	先進地視察	生産技術、普及・ 流通、有機給食
	県外	新・農業人フェア	農地・移住・就農
	ー	有機JAS認証取得支援(受講・検査費用支援)	事務局
	ー	検討会の開催(全体または専門部会での会議)	全体(各部会)